回覧 まめなけ！新聞 第14号 平成30年9月1日

特集

朝日岳登山に挑む！

朝日中学校2年生

平成30年7月25日（水）早朝5時、小さな体に大きな荷物を背負い、どこか少し不安げな顔をした生徒たちが次々と中学校駐車場に集合してきました。その荷物の重さは大人と同じほどで「本当にこの荷物を担いで上がれるのか・・・」とこちらまで不安になってしまいました。しかし、朝の不安げな顔とは裏腹に、皆頂上を目指し力強く歩き始めました。

イブリ山山頂（10合目）までは辛い登りが続きます。イブリ頂上で待っていたのはサポーターが小屋から汲んできた冷たいお水。生徒の給水を助け元気付けます。

そこを乗り切ると景色が開け、先に行った生徒たちは遠くに見える後続の生徒に「ヤッホー、ヤッホー」と、まるで元気を分けてあげるように声をかけます。

同行しているサポーターも生徒たちの疲れを紛らわすように、伝言ゲームで声を掛け合ったり、雪渓での飲み物の冷やし方を教えたり雪だるまを作って遊ばせるなど、自然を楽しんでもらえるよう工夫をしていました。

大変な道のりを乗り切ると、そこには先着していた生徒たちが仲間たちを労うように手をあげ出迎えてくれました。余力のある男子生徒は、小屋前に残っている雪渓で、はしゃぎながら走り回っています。

若いって素晴らしい！

生徒全員が登り切り一息ついたところで、念願の夕食タイム！天気に恵まれたため外で夕食をいただきます。生徒たちは思い思いの場所で美味しいカレーを頬張りました。

一致団結

<テーマ>

あ　あきらめないで
さ　山頂へ
ひ　ひとりではなく
だ　団結し合って
け　懸命に登ろう

仲間と助け合い、
笑顔で思い出に残る
登山にしよう

日来光

感動

翌朝午前3時、眠たい目を擦りながら生徒たちは集合しました。辺りはまだ真っ暗でヘッドライトの明かりだけで朝日小屋から山頂を目指します。この登山のメインイベントでもあるご来光を拝むためです。生徒たちの頑張りを讃えるように太陽は空を赤く染めながら昇っていきました。雲海から上がってくる太陽を見ながら彼らは今回の目的でもある

★★★不屈の精神を養い、成し遂げる成就感を味わう
★★★協力し合い、友情を深め仲間の大切さを知る
★★★郷土の山である朝日岳の雄大な景観を観賞し、ふるさと朝日町の素晴らしさを学ぶ

これらを感じられたのではないでしょうか。

さて、頂上を下りたら朝食を食べ、小屋の方々にお礼をし、万歳で見送られながら下山です。

〃編集後記〃

今回初めてサポーターとして中学生に同行させていただきました。登山途中には鼻血を出してしまう子や靴の底がはがれてしまう子、転んで擦り剝いてしまう子と様々なハプニングがありました。しかし、生徒たちは弱音も吐かず、互いに気遣い、励まし合い、助け合い、危険なところは声を掛け合いながら頑張っている姿に、とても感心し感動しました。故郷に雄大な山があり、その山を登ることで町の素晴らしさを知り、人として成長できるこの取り組みは今後も続けてほしいと感じました。

≪記者・横山≫

★発行・お問合せ★　地域おこし協力隊　０７６５－８３－１１００